

はあもにいでは、男女共同参画社会の実現に向けた講座や講演会、イベントを開催しています。令和7年春から夏に行われた主なものを紹介します。

ユニバーサルマナー検定3級資格取得講座

高齢者、障害のある方など、さまざまな立場の視点で考え、行動するための心構えや声掛け方法などを学ぶ「ユニバーサルマナー検定3級資格取得講座」を、8月3日(日)に開催しました。13歳から65歳までの幅広い世代が参加しました。

講師の田中利樹さん(株式会社ミライロ)は、自身の経験を交えながら、配慮が伝わる声の掛け方や適切な対応の方法について具体的に紹介。すぐに実践できるユニバーサルマナーの基本を、座学とグループワークを通して学びまし

た。田中さんは「いざ誰かを助けようと思っても『なんと声を掛ければいいのか』と迷う人は少なくありません。『無関心』にも『過剰』にもならないよう、相手の困り事や気持ちに寄り添う姿勢が大切です」と話します。

受講生からは、「マークの意味を理解し、いつでも声を掛けられる準備をしておきたい」「大丈夫ですか?ではなく、選択肢を提示することを心掛けたい」「迷わずにサッとその人に合った行動をとりたいたい」など、今後の行動や意識につながる感想が寄せられました。



自身の経験も合わせて、分かりやすく話す講師

夏休み中という事もあり、10代の参加者も多く見られました

市民グループ企画 熊本市内を中心に活動している団体と、はあもにいで共同開催した2講座

令和版 The・井戸端会議

健康や美容、起業支援などのイベントを通して気軽に語り合い、参加者同士がサポートし合い、夢の実現や女性が活躍できる環境を広げている「Free Lady Talk(フリーレディトーク)」。その活動の一環として、7月に全2回の講座「令和版 The・井戸端会議」を開催しました。

7月13日(日)は「子育て」をテーマに、前半は音楽に合わせて体を動かすリトミックでリラックスし、後半は子どもが伸びる言葉掛けを学びました。7月27日(日)は「美容・健康」をテーマに、前半は似合う色を見つけるパーソナルカラー診断、後半は薬膳の話や体験コーナーが行われ、話が弾みました。どちらの回も参加者の笑顔があふれ、子育てや家事、仕事で忙しい女性が「自分のために時間を使うことの大切さ」を実感できる時間となりました。



女性のための健康講座 ～学んでみよう、DV、そして親子のこと～

「ウィメンズ・カウンセリングルーム熊本」は、女性のメンタルヘルスを支え、エンパワメントを通じて旧来の性別役割分業にとらわれない生き方を目指すNPO法人です。

6月15日(日)～9月14日(日)まで全7回の講座を開催。各回テーマを変え、「DVとは」「共依存について」など幅広く情報を提供しました。特に「性差医療と女性のからだ」の回では、春日クリニック院長の清田眞由美氏から貴重な話を聞けました。学びを重ね、夫やパートナーとの関係で押し付けられてきた「男女の役割による生きづらさ」を手放し語り合う中で、「ひとりではない」という勇気を得ることができたようです。

男女共同参画週間

若者が表現する「こんな未来だったらいいな」作品コンテスト&展示



はあもにい賞
ペンネーム:かのかんさん



TOMMY-ZAWA賞
ペンネーム: TanuAyaさん



伊藤比呂美賞(動画) ペンネーム: SAKIさん

入選作品はHPに掲載しています



SAKIさんの作品はこちらから視聴できます



内閣府が定めた男女共同参画週間(6月23日～29日)に合わせて、「こんな未来だったらいいな」をテーマにした作品を若い世代から募集しました。10歳から大学生まで46点の応募があり、子どもや学生たちが思い描く「ジェンダー平等未来のカタチ」が集まりました。動画、イラスト、絵画など、自由な手法で表現してくれました。

応募してくれた若者たちは、作品づくりを通してジェンダー平等という漠然とした課題に真剣に向き合い、自分の人生に関わる身近な問題として捉え直してくれたようです。

選考には、詩人の伊藤比呂美さん、イラストレーターのTOMMY-ZAWAさんをお迎えしました。当館の館長も加わり、一つ一つの作品を丁寧に見て意見を交わし、審査員賞3点と入選10点を選びました。

応募いただいた全作品は、6月20日～7月5日まで当館ギャラリーで展示しました。多くの人々が足を止め、作品をじっくりと観賞していました。

作家アルティシアさん講演会「ジェンダーを知ると生きやすくなるよ」



「自分ができすることで、良い社会にしていきたいと思います」と力強く語りました

7月12日(土)、作家のアルティシアさんを講師に迎え、「ジェンダーを知ると生きやすくなるよ」と題した講演会を開催しました。62人が参加し、ジェンダーやフェミニズムなどの身近なテーマについて一緒に考えました。

講演では、「男らしさ」や「女らしさ」といった固定観念にとらわれず、自分らしく生きることの大切さが語られました。両親がジェンダーの「呪い」によって亡くなったと感じた経験を例に挙げ、個人的な苦しみが生きていく社会から生まれることがあると説明。ジェンダーについて正しく知ること、「自分を責める気持ちから解放される」と訴えました。また、無意識の偏見である「ア

ンコンシャス・バイアス」が社会全体の安全に関わる問題だと指摘。一部の人がだけが差別されないのではなく、誰もが生きやすい社会を目指すことが重要だと伝えました。

難しく感じられがちなフェミニズムやジェンダーの問題を、ユーモアを交え力強く話すアルティシアさんの言葉に、参加者は引き込まれていました。参加者からは「政治や生活、女性の権利について深く知ることができた」「誰もが生きやすい社会のために、自分にできることから始めてみたい」といった声が寄せられ、多くの人が新たな気づきと行動のきっかけを得たようです。